

神田小の誇りは「明るい笑顔」と「元気なあいさつ」：すべては神田の子の「希望をはぐくむために」



学校だより

No. 9 さいたま市立神田小学校
令和5年 1月6日発行 Tel (853) 4377
URL: <http://jinde-e.saitama-city.ed.jp/>

学校教育目標

○人間性豊かで 21世紀を
たくましく生きる神田の子
・かしこく・たくましく・あたたかく

心のはなは咲いていますか

校長 米玉利 優子

令和5年が始まりました。1月6日（金）に元気な子どもたちのあいさつが聞こえ、学校に命が吹き込まれました。本年も教職員一同、「すべては神田の子の希望をはぐくむために」の合言葉を胸に真摯に努力してまいります。保護者の皆様、地域の皆様、本年もどうぞよろしく願いいたします。

「心のはなは咲いていますか」毎年、神田小学校の教え子から届く年賀状に書いてある言葉です。「心のはなを咲かせよう」を合言葉にしていたかわいい6年生の笑顔を今もはっきりと覚えています。「先生は私たちの心に種を植えてくれました。明るさ、やさしさ、前向き、勇気、努力。その花を咲かせるか、枯らすかは私たちの生き方次第です。見ていてください。」卒業式の日にかたく語った子どもたちの姿を年賀状を読むたびに思い出します。あの子たちに恥じない生き方をしているのか、今年も自分を見つめ直しました。ふと、大晦日や元日も人の往来や流通を止めないために働いてくださる電車やバス、トラックの運転手さん、多くの人の命を支え続ける医師や看護師、介護職の方を想いました。そして、私たちの前に当たり前のようにある、あたたかい太陽、澄んだ青空、雪をかぶった輝く富士山を見ながら、人や自然の姿から何かを感じ、何かを学べる豊かな感受性を持ち続けているのかと自分に問い、心を新たにしました。教え子に教えられる年初です。

子どもたちが生きるこれからの世界は、今以上に様々な情報にあふれ、機械化された社会になります。しかし、どんなに素晴らしい機能をもった機械も人間を超えることはできないと私は強く信じています。だからこそ、私たちは、人間としての根である「心」を育てていかなければなりません。友達の想いに耳を澄ませ、比較しながら自分の考えを確立する。野菜を食べる時、愛情をこめて大切に育ててくれた農家の方を想う。ゴミを捨てる時、これを誰かが集めてくれるのだな、ありがとうと心の中でつぶやく。道端に咲く花に、今日も共に頑張っている生きようね！と微笑む。SNSに自分の言葉を書き載せる時、読んだ人が不快に思わないかなと立ち止まって考える。遠い国で起きている戦争も自分がこの場にいたら…と想像してみる。日常にある出来事を感じ、考える。その小さな積み重ねが人として大切な「心」を育てるのだと思います。そして、その心の力こそが、未来を創る力になるのではないのでしょうか。子どもたちの心の土を耕し、様々な種を植える。そう思うと、子どもたちとの生活が楽しくなってきます。どんな言葉で子どもの心を耕すのか、どんな姿を見せ、子どもの心に種を植え、栄養を与えるのか…大人の役割が見えてきます。人として大切な「心」を育成できるように、未来を創るたくましい神田の子を育成できるように、時に少し前を歩き、時に背中を見守りながら、令和5年も子どもに寄り添い、ゆっくりと着実に歩んでいきたいと思っています。明るく、前向きな心のはなが今、咲いているよ、と教え子に胸を張って言えるように…。

保護者の皆様、並びに地域の皆様には、今月も子どもたちの心に栄養を与えるあたたかい声かけと変わらぬ御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます。